

CASE 2

ブレインリハビリで生活意欲が向上した例

リウマチのある利用者様に、座位訓練の目的でブレインリハビリを実施しました。開始当初は計算や文字の並び替えやことわざの音読など、本人のやりたい項目を確認しながら実施していましたが、ことわざを音読している際に本人より、「ことわざと意味を忘れてしまい、覚えられないからノートに写して部屋でも見たい。」とのことでしたので、ご自身でノートに、ことわざとその意味を書き写して頂きました。



写している時や次のリハビリ時(自室でノート確認後)に分からない意味や見えにくかった漢字があると質問や確認をされることもあり、一通りことわざを書き写された後は四字熟語や百人一首にも興味を示されました。以前は日中の臥床時間も長くあまり活動的とは言えませんでした。書き写しを始めてからは、決められた時間にリハビリ室に来られて、書き写しをされたり、ご自身で食堂に出て来られて献立を写したりと座位時間や居室から出る時間が増えました。

平成 29 年 4 月